

# ビーチボールバレー

## 1 概要

既存のバドミントンコート・ネット等を利用して、専用のビーチボールを使って行うバレーです。

ボールが柔らかいため、突き指の心配がないこと、ボールのスピードがやや遅いので、ボールを追いやしく運動量が多くなること、ボールが適当に変化するため意外性に富み、初心者から上級者の方まで力量に応じてプレーできること、が特徴として挙げられます。

富山県朝日町で誕生したスポーツで、スポーツに自信のない方や普段スポーツの機会に恵まれない女性や高齢者にすすめるスポーツとして、朝日町教育委員会と朝日町体育指導委員（現在、スポーツ推進委員）によって、昭和 54 年にルールが制定されました。

## 2 用具

- ・ビーチボール（白と緑のビニール製、直径 27cm± 1 cm、重さ 70g± 2 g）
- ・ビーチボール用ネット  
※バドミントンネットで代用可能
- ・ビーチボール用支柱  
※バドミントン支柱に補助支柱をつけたもので代用可能



- ・アンテナ
- ・得点板



## 3 コート

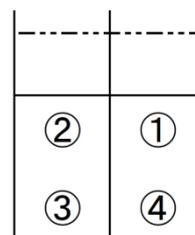
- ・バドミンントンのダブルスコートを利用します。
- ・ネットの高さは 180cm とします。
- ・ボールの両端（外側）に、ネットの上に 80cm 以上出るようにアンテナを取り付けます。

## 4 人数

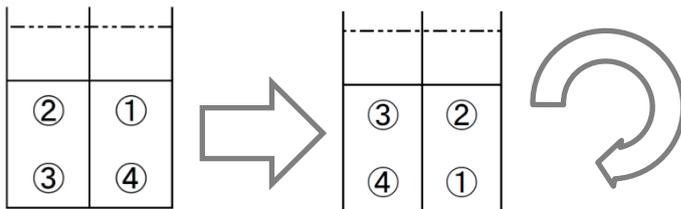
4 人対 4 人で行います。

## 5 ゲームの進め方

- (1) ゲーム開始前に、最初のサービス権をとるかコートをとるかを決める。
- (2) プレーヤーは前衛 2 人、後衛 2 人のポジションに位置し、サービスが行われる瞬間には、所定のポジション（右図のとおり）にいないといけない。  
（サービスが行われたらどこに動いてもよい）



- (3) サービスは1本。前衛右のプレーヤーが、主審の合図によってサービスコート内からアンダーハンドで相手コート内（どこでも可）に打ちこむ。  
※サービスは、サイドアウトになるまで同一サーバーによって続行する。
- (4) バレーボールのルールに準じて、ボールをコート内に落とさないようにレシーブし、3回以内でネットを越えて相手コートに返すことを繰り返す。  
※ボールはウエストより上の身体の中の部分で打ってもよい。
- (5) サービス権があるチームが勝てば1点獲得し、逆にないチームが勝てばサービス権の移行をする。
- (6) サービス権を得たチームは、直ちに、右回りにローテーション（メンバーの位置を1つ移動）する。



- (7) 9点を先取したチームが、そのセットの勝者となる。1ゲームは3セットマッチ制とし、2セット先取したチームがゲームの勝者となる。
- (8) 第2セット以降の各セットのサービス開始は、前のセットで最初にサービス権を行使しなかったチームが行う。
- (9) コートはセットごとに交替する。ただし、第3セットは、いずれかのチームが5点先取したときにも交替する。そのとき、サービス権やプレーヤーのポジションは変わらず、交替時のまま続行する。

色々ありますが、6人制バレーボールのルールに準じています。  
ひとまず、下線部に目を通して頂ければ大丈夫かと思います。

## 6 ルール（参考）

- (1) サービス
  - ・ サービスは1回とし、前衛右のプレーヤーが、主審の合図によってサービスコート内からアンダーハンドで相手コート内（どこでも可）に打ちこむ。  
※サービスの前には、ボールを正面に構えて、身体および両足がネットに正対しないと、主審の合図が出ない。
  - ・ 主審の吹笛後、正対の位置から1歩だけ前に踏み出してもよいが、サービスの瞬間にはサーバーの両足の一部は床面についていること。  
※吹笛前にサービスした場合はやり直すが、2歩以上の踏み出し、床面接地なしの場合は失敗となる。
  - ・ サーバーの支持手から離れたボールが、サーバーの身体に触れないで床面に落下した場合は、サービスを1回だけやり直すことができる。
  - ・ サービスは、サイドアウトになるまで同一サーバーによって続行する。
  - ・ 身体の側面から、ボール1個分以上離れて行われたサービスは、失敗となる。

## (2) サービス権の移行・得点

サービス権の移行・得点は、次のような状態になったときに行われる。

### ①サービスの失敗

- ・ サービスがサービスコート内で行われなかった、サーバーがサービスを行うときサービスラインに触れた、踏み越えた
- ・ サービスボールがネットに触れた、ネットの下を通過した、コート各区画外（ライン上はセーフ）に落ちた。
- ・ サービスボールが、相手プレーヤーに触れる前に味方プレーヤー・その他の物体に触れた。
- ・ サービスボールがネットを越えて相手コートに入ったが、相手プレーヤーに触れることなくネット下をくぐり、サービス側コートに落ちた。

### ②アウト・オブ・バウンズ

- ・ ボールがネットの下を通過した、コート各区画外（ライン上はセーフ）に落ちた。
- ・ ボールがアンテナ・支柱に触れた、アンテナ間を通過しなかった。

### ③ボールを持って静止した。（ホールディング）

### ④ボールを相手コートに返す前に、4回以上プレーした。プレー中にネットに触れて、5回以上プレーした。（オーバータイムス）

### ⑤同じ選手が連続してボールに触れた。（ドリブル）

※ただし、ボールがネットに触れたときは、もう1回だけボールに触れることができる。

### ⑥アタック・ブロックの際、手がネットを越えて相手側コート上にあるボールに触れた。（オーバーネット）…ボールに触れた部位が、その時ネットを越えているかで判断する。

※手がネットを越えてもボールに触れなかった、ネットを越えていない顔でブロックした、などの場合はセーフ。

※アタック後、ブロック後に手がネットを越えるのもセーフ。

### ⑦ボールがインプレーの状態にあるとき、プレーヤーの身体・衣服がネット・アンテナ・支柱に触れた。（タッチネット）

※風でネットがふくらんだことによるタッチネットも成立する。

※ボールがネットに触れた結果、自然にネットが相手プレーヤーに触れた場合は反則ではなく、ボールはなおインプレーの状態とする。

### ⑧サーブされた瞬間に、プレーヤーの定位置が誤っていた。（アウト・オブ・ポジション）

※誤りが発見された場合は、誤ったチームのプレーヤーの位置を直ちに訂正し、得点はそのまま有効。誤ったチームがサーブ権を持っていればサイドアウト、レシーブ側なら1点を失う。

### ⑨インターフェア

・ ネットにあたったボールが、ネット越しにあたるだろうと予測して、故意に手や身体をあらかじめ突き出して触れた。

・ ラストボールがネットにあたり、相手側プレーヤーが故意に触れた。

・ ネット下を完全に通過しないボールに、相手側プレーヤーが故意に触れた。

・ ネットの上、または下でネット越しに、相手コートに手または身体を出し、その動作によって相手のプレーを妨害したと判断された。

※ネット越しに相手コートに手や身体を出しても、相手側のプレーを妨害したり、相手側のプレーヤーに触れなければ反則ではない。

・ 相手側プレーヤーに対する不愉快な言動、あるいは人身攻撃、手や足による騒音を発したりして相手側プレーヤーの妨害となった。

⑩ディレーイング・ザ・ゲーム

- ・意識的な態度でゲームを遅延させた。
- ・サーバーが、サーブの開始の吹笛後、5秒以内にサーブを行わなかった。

(3) 2人以上の選手によるプレー

- ・ブロッキングは誰でも自由に参加できる。
- ・同じチームの2人以上の選手が同時にボールをプレーした場合、ボール接触回数は1回として数える。この場合、どの選手が続いてボールに触れてもドリブルにはならない。
- ・相手チームとのネット上のプレー
  - ①相対するチームの2人のプレーヤーが、ネット上で同時に打った場合は、ボールが落ちた反対側の選手が最後に触れた者とみなす。よって、どちらに落下してもあと3回プレーできる。
  - ②相対するチームの2人のプレーヤーが同時に触れたボールが、コート内に落ちたときは、ボールを落とされたチームの失敗となり、コート外に落ちれば相手側チームの失敗となる。
  - ③相対するチームの2人の選手がネット上で同時にホールディングした場合、ダブルファウルとしてプレーをやり直す。

(4) ネットに関係あるプレー

- ・競技の途中に、両翼のアンテナの間にあるネットに触れたボールは常に有効である。(サービスの場合は失敗)
- ・ボールがネットに引っ掛かったときは、ノーカウントとし、プレーをやり直す。
- ・2本のアンテナあるいはその想像延長線上の間を通過したボールは有効。アンテナの想像延長線間の外側を通過したボールは、どんな場合でも相手方コートへ進出してプレーすることはできない。
- ・相対するチームの2人の選手が同時にネットに触れた場合は、ダブルファウルとしてプレーをやり直す。(ダブルタッチネット)